

古代山城築城と古代国家の形成～屋嶋城が築かれた時代を探る～

天智天皇六年十一月
是月築倭國高安城
讚吉國山田郡屋嶋城
對馬國金田城

古代山城 サミット

現地見学会

主催：高松市教育委員会

後援 香川県教育委員会・坂出市教育委員会・丸亀市教育委員会・朝日新聞高松総局・RSK・RNC西日本放送・NHK高松放送局・OHK岡山放送
KSB瀬戸内海放送・産経新聞社高松支局・山陽新聞社・四国新聞社・TSCテレビせとうち・毎日新聞高松支局・読売新聞大阪本社

古代山城 屋嶋城

屋嶋南嶺に所在する関連遺構

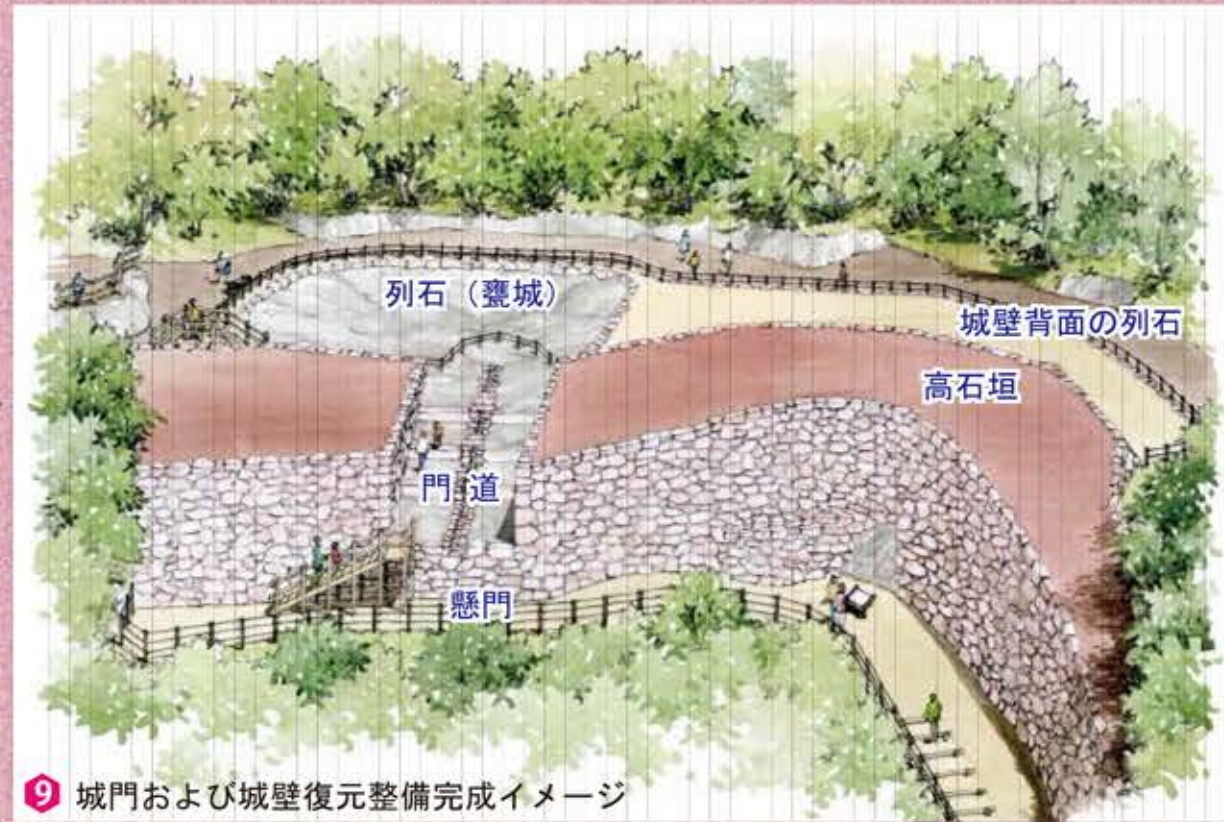
天智天皇2（663）年の白村江の戦いで大敗した大和朝廷は、対馬・九州から瀬戸内海沿岸にかけて防御の城を築きました。その一つがここ屋嶋に、同6（667）年に築かれた屋嶋城です。

屋嶋城跡の外郭線（縄張り）は全長7kmに及びますが、そのほとんどは急な断崖による自然の要害で、城壁等の人工構造物を構築した範囲は全体の約10%です。その中で最も大規模に城壁や城門が築かれているのが、南嶺の南西斜面の谷筋に所在する城門地区です。この他にも南嶺地区には城に関する遺構が確認されています。

高石垣調査前



高石垣調査後



城壁背面の列石



城門の内側で確認された列石（甕城）



10 南水門



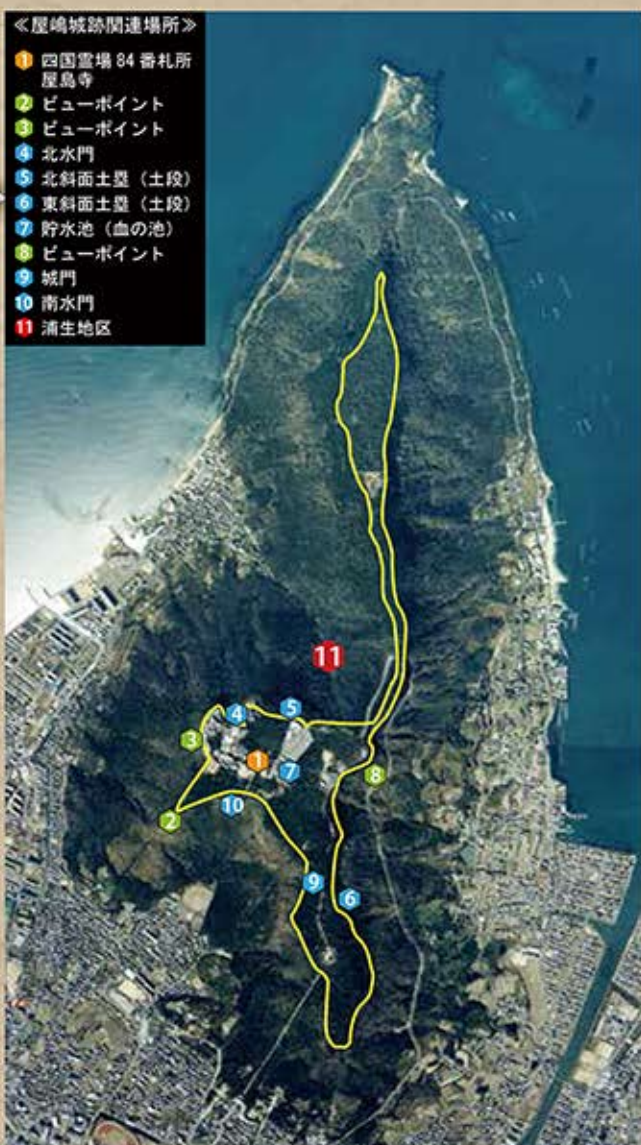
懸門（外側から）



門道（内側から）



屋嶋城跡浦生地区



古代山城屋嶋城跡は山頂の城壁以外にも、浦生地区と呼ばれている標高 100m ほどのところに 50m に渡って城壁が築かれています。そこは、北嶺と南嶺が接続する西側に開けた谷に位置し、屋嶋城跡の遺構として早くから注目を集めてきました。

これまでそれを証明することのできる資料がありませんでしたが、平成 21 年度から開始した発掘調査によって、7 世紀後半に築かれたことが明らかになりました。浦生地区の城壁は、屋嶋山上の城壁の外側に位置する遺構であることから、福岡県の大野城跡と水城跡と同様な二重の防御線をもつ構成をとる古代山城である可能性が高まり、現在、改めて注目が集まっています。

このほかに、城門や櫓台などの防御施設に想定されている箇所が非常に良好に残っており、今後の発掘調査が期待されています。

まだまだ謎多き屋嶋城跡ですが、発掘調査の結果、少しずつその正体が明らかになりつつあります。



浦生地区の城門推定地



浦生地区の城壁